

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 1番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 5 年12月28日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 5 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活において出来ることは時間が掛かってなるべく自身で着替えや掃除、身の回りのことをして頂く様にしています。
皆さんお手伝いしたい気持ちが増えてきて人の役に立ちたいと意欲が出たり、やさしい気持ちの利用者様がホームにいらっしゃいます。
スタッフのチームワークもしっかりとれているので仕事がしやすい環境

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地内には畑や花壇があり、利用者は、そこで植物を育てている。リビングは南側に面しており、暖かな日差しが入り、明るく過ごしやすい環境である。また、職員や利用者の作品が飾られて、アットホームな雰囲気が感じられる。食事は、ホーム内で、利用者の食べたいものを聞き、季節の食材を取り入れて、利用者と一緒に作っている。コロナ禍での面会や外出は制限されていたが、少しずつ緩和されて、現在は居室での面会や外出支援も可能になってきた。ホームの理念である「三つの感謝(人に感謝、日々に感謝、地域に感謝)」は職員に浸透しており、感謝の気持ちをもって、日々、利用者のケア実践に努めている。また、一方的に介助する姿勢ではなく、利用者が自分でできることや行うことで得られる自己肯定感や達成感を大切にしている。利用者が不穏な状態にある場合は、「心配事」があると捉え、その状況の背景を考えて、利用者の立場に立って考え、安心して過ごせるよう、支援している。医療との連携については、提携する主治医の定期的な訪問診療や24時間の訪問看護に加えて、緊急時対応も可能であり、利用者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は変わらず、スタッフ一同日々思い浮かべながら仕事に励んでいると思います	理念にある三つの感謝(人に感謝、日々感謝、地域に感謝)を掲げ、ホームの玄関等に掲示している。利用者や家族、職員同士、地域住民に対して、「何事にも感謝」という意識が職員間で浸透している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の状態が以前に比べて低下しているのではなかなか外出が困難となり交流の機会が減ってしまっている。	近隣の住民と散歩で出会う際には、挨拶等をおこなっている。今年より、月2回、外国人のボランティアに利用者の話し相手になってもらい、交流を図っている。公民館のサロンにも参加している。	以前は自治会と交流をしていたが、コロナ禍を経て、希薄になりつつある。今後、地域との関係性を再び取り戻すべく、交流活動の強化に向けた取り組みに期待したい。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年2ヶ月に一回開催してグループホームでの困り事など相談してアドバイスを頂いたりしている。	市担当者や地域包括支援センター、民生委員等が参加して、会議を開催している。運営状況として、写真付きのたよりも作成し、事故やヒヤリハット、行事等の報告を行っている。感染症対策や職員の教育や確保及び職員の定着等についても議題にあげて意見交換をしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で出席された場合には、折角の機会なので分からない事など尋ねたりしている。	日頃より、法改正やホームでの課題等について、相談し、助言を得ている。毎月の空室状況を市担当者に報告をし、入居相談があれば、対応する等して、連携している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3回を目安にスタッフ一同、研修会で初心に戻りしっかりと取り組んでいる。	防犯上、また国道に近いので、玄関は施錠している。外に行きたい様子があれば、制止はせず、付き添う等して気分転換を図っている。身体拘束に関する委員会を開催し、資料をもとにレポートを作成する等して、職員の意識づけを図っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース、新聞などでよく事件が起きているが、他人事でない事だと改めて認識していく。	日頃、虐待の事件等、ニュースで目にとると、当ホームのこととして、申し送り等で取り上げ、職員間で共有して、意識向上に努めている。利用者に対して、気になる言葉遣いがあった場合、その都度、職員へ声かけしたり、会議等で話し合いを持つ等して、改善に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が増え身寄りのない方などは後見人制度を活用するようになった。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に看取りの事を丁寧にお伝えします。問題にならない様に、入退院の場合や退居になる説明等。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など相談を受けたり電話で話したり、LINEも要望で使用したりと対応している。	利用者とは普段から、好きなものやメニューの意見を聞き、献立に取り入れている。家族からは外出の希望を聞き取り、現在は月1回、外出できるよう対応している。また、SNSを活用して個別に意見を聞く機会も持ち、職員会議で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で業務内容や何か負担になっている事など教えてもらい改善に繋げている。	毎月、ユニット会議を開催し、ケア方法やホームの運営について意見を聞き、業務を見直し、改善に努めている。また、管理者は自分だけでなく、系列施設の管理者同士や統括責任者と意見交換ができる環境になっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフの長所を多く見つけ日頃の感謝を伝え処遇改善などに反映している。	料理やレクリエーション等、得意な職員には役割として担ってもらい、やりがいを持って働けるようサポートしている。職員それぞれの希望や家庭状況を反映した勤務シフトを作成する等して、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境を作っている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施しています。	法定研修は、ホーム内の会議の中で実施したり、職員同士で、知識を深めている。外部研修については、勤務シフトの人員配置による制限もあり、オンラインによる研修は参加しているが、頻度は少ない。	小規模施設であり、職員数を考えれば、難しいところではあるが、今後とも、将来の人的投資として、外部研修の機会の充実に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ系列の事業所を訪問して、意見交換したり見学したりして情報を共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	車椅子の利用者様に対して、利用者様が困ったりするとちょっと手助けしたり、助け合う場になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心配事などスタッフに相談出来るまでの関係性を作る。	普段から、暮らしの悩みや困っていることについて、態度や仕草、言動を観察したり、居室でひとりで過ごしている時に聞く等して、関係性を深めつつ、意向の把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの要望、ご家族・ご本人の話しのなかでご要望など取り入れている。	家族には電話や面会時に現状報告をしながら、意向の確認を行うとともに、主治医や訪問看護師に意見を聞いて、ケアマネジャーを中心に、ユニット会議で介護計画を作成し、見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも、情報共有・申し送りを必ず確認して早く対応出来る事は解決している。	体温や血圧、脈拍等の健康状態や食事、排泄、入浴等のケアの実施記録をつけるとともに、毎日の生活の様子を早番、日勤、夜勤帯に分けて記録している。介護記録や申し送りノート、口頭での引継ぎを行うことで、職員間で情報が共有されている。また、小さな気づきを大切にしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其の都度、起きた事に敏速に対応する様心掛けています。	利用者家族が、高齢や病気で対応できない時は、病院受診の付き添いや衣類の洗濯等の支援を行っている。また、買い物についても家族対応が難しい場合は、職員が代理で購入する等、家族の状況に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との交流が減ってしまい、なかなか難しい状況である。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともと通院していた病院は、継続で家族が付き添われ受診されているケースがある。	かかりつけ医は、従前のかかりつけ医、提携医のどちらの選択も自由である。提携医は月に2回の訪問診療、また、24時間の訪問看護を受ける等、連携関係を密にしており、体調に状況変化が生じた場合には、随時対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員さんとは長年お世話になっているので、入院した際は経過の事や退院に向けての情報交換など努めている。	入院時には、利用者の利用者情報を提供し、お見舞いや洗濯物を取りに行く際等の機会を捉えて、入院先の看護師や相談員と話し合いを持ち、早期退院に向けて連携を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時などご本人がお元気な内に人生の最期についてご要望を確認している。	入居時や状態変化時には、利用者や家族に、ホームが対応可能なケアについて説明し、意向や希望を確認している。終末期には、主治医から説明を行い、利用者・家族の意向に沿って、訪問看護と連携して看取りケアを行っている。家族も泊まり、付き添えるようにして、一緒に過ごす時間を大切にしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は全職員で研修して実施している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は夜間想定も含め年2回実施している。スタッフが順番に通報訓練行なっている。	非常食や水、生活用品等の備蓄を整えている。また、年2回、消防訓練や災害研修を実施することで、職員は適切な対応方法を継続的に学び、緊急時に迅速に行動できるよう備えている。管理者は、ホームだけでなく、統括責任者とも対応方法について話し合い、連携を強化し、法人全体で一貫した対応を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の様子を見ながら、トイレの声掛けが必要な人には耳元でお伝えするなど心掛けている。	利用者一人ひとりを尊重する観点から、本人の尊厳を損ねないよう、さりげない声かけに留意するとともに、日常的なケアの場面でのプライバシー確保に努めている。また、申し送り時は、利用者の良いところに焦点をあてて話し合うように意識している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴を嫌がる方には必要以上に声を掛けせずに、ご本人の意向に合わせた対応を行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中休みの方は自由にして頂き、食事のペースなども一人一人違うので、個々に合わせた対応をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好物などを思い出して頂き、聞き出したら献立に取り入れる様になっている。季節を感じる料理も工夫して提供している。	ユニットごとに献立を考え、リビングで利用者ができる役割を担ってもらい、一緒に調理や盛り付けを行っている。誕生日には、食べたいと思う献立を聞き取り、特別なメニューを提供している。また、正月にはおせち料理、土用の丑の日には鰻等、季節に合わせた食事を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録している。毎月の体重測定も実施しており、体重増加の方には少し減量の方の支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケア、就寝時には義歯を預かり、洗浄剤で消毒を行なっている。	利用者一人ひとりの口腔状態に合わせ、毎食後にケアを行っている。特に、食後に残渣が多く残っている場合は、誤嚥性肺炎のリスクがあることを、職員で情報共有し、支援している。口腔内や義歯に異常がみられる場合には、協力歯科医が往診に来る体制が整っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から個々のトイレ誘導をスタッフが声掛け思案がらこまめに対応し、失禁する前にと心掛けている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴実施。入りたくない方には篤実にするなど無理はさせない様にしている。バスクリンで楽しんで頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動量を増やし、ぐっすり夜は眠れる様に臥床時間を増やしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分からない事があれば、医師には勿論、薬剤師にも確認している。	主治医や薬剤師と、気軽に相談できる関係性ができている。体調の変化を早期に気づき、症状が悪化する前に相談している。重要事項は申し送りノートや記録を行い、情報共有を図るとともに、利用者に合わせて、服薬介助の統一と服薬確認に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課の掃除の役割など、お手伝いして頂いている。それぞれの出来る範囲で得意な事で活かせる場を設けている。	洗濯たたみや茶碗拭き、居室のモップ掛けなど、利用者の得意なことやできることを大切にして、手伝いをお願いしている。利用者が自信を持って、いきいきと生活できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出は控えていたが、遠足に出かける事が出来た。買い物に行きたいか方にはスタッフが同行した。	コロナ禍で、以前よりも外出支援が制限的な状況にあっても、買い物や喫茶店、初詣等、外出の機会を増やしており、今年度はバスを借りて遠足にも出かけている。職員だけでなく、家族も同行して外食や行きつけの美容院に行く等、利用者に合わせた外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は自分でお金を管理している。必要な物があればスタッフが購入代行している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持って入所された方はお友達と日頃、電話で話して生きがいが出てきた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物を育て季節感を感じてもらおう。テーブルの席は余り替えず安心してもらう様に努めている。	リビングは、採光に優れて明るく、落ち着いた空間である。また、利用者や職員と一緒に作った作品が廊下やリビングに飾られ、家庭的な雰囲気が感じられる。廊下は広く、車椅子でも行き来がスムーズに行える環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで年の合った方同志でお喋りしたり仲良く過ごして見える。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅の時に使われていた家具やTVなど置かれている。思い出の写真も飾ってもらっている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべて手助けするのではなく出来ることは増やしてあげたい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 2番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 5 年12月28日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 5 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JlgvossyoCd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活において出来ることは時間が掛かってなるべく自身で着替えや掃除、身の回りのことをして頂く様にしています。
皆さんお手伝いしたい気持ちが増えてきて人の役に立ちたいと意欲が出たり、やさしい気持ちの利用者様がホームにいらっしゃいます。
スタッフのチームワークもしっかりとれているので仕事がしやすい環境

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は変わらず、スタッフ一同日々思い浮かべながら仕事に励んでいると思います		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の状態が以前に比べて低下してきているのでなかなか外出が困難となり交流の機会が減ってしまっている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年2ヶ月に一回開催してグループホームでの困り事など相談してアドバイスを頂いたりしている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で出席された場合には、折角の機会なので分からない事など尋ねたりしている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3回を目安にスタッフ一同、研修会で初心に戻り しっかりと取り組んでいる		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース、新聞などでよく事件が起きているが、人事でない事だと改めて認識していく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が増え身寄りのない方などは後見人制度を活用するようになりました		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に看取りの事を丁寧にお伝えします。問題にならない様に、入退院の場合や退居になる説明等		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など相談を受けたり電話で話したり、LINEも要望で使用したりと対応している		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で業務内容や何か負担になっている事など教えてもらい改善に繋がっています		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフの長所を多く見つけ日頃の感謝を伝え処遇改善などに反映している		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ系列の事業所を訪問して、意見交換したり見学したりして情報を共有しています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	車椅子の利用者様に対して、利用者様が困ったりするとちょっと手助けしたり、助け合う場になってます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心配事などスタッフに相談出来るまでの関係性を作る		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの要望、ご家族・ご本人の話しのなかでご要望など取り入れている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも、情報共有・申し送りを必ず確認して早く対応出来る事は解決していく		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其の都度、起きた事に敏速に対応する様心掛けています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との交流が減ってしまい、なかなか難しくなっている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともと通院していた病院は、継続でご家族が付き添われ受診されているケースもあります		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員さんとは長年お世話になっているので、入院した際は経過の事や退院に向けての情報交換など努めている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時などにご本人がお元気な内に人生の最期についてご要望を確認しています		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は全職員で研修して実施している		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は夜間想定も含め年2回実施している スタッフが順番に通報訓練行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の様子を見ながら、トイレの声掛けが必要な人には耳元でお伝えするなど心掛けている		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴を嫌がる方には必要以上に声を掛けずに、ご本人の意向に合わせた対応を行っている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中休みたい方は自由にして頂き、食事のペースなども一人一人違うので、個々に合わせた対応をしている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好物などを思い出して頂き、聞き出したら献立に取り入れる様になっている。季節を感じるりょうりも工夫している		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録している 毎月の体重測定も実施しており、体重増加の方には少し減量の方の支援している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケア、就寝時には義歯を預かり、洗浄剤で消毒を行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から個々のトイレ誘導をスタッフが生掛け思案がらこまめに対応し、失禁するまえにと心掛けている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴実施 入りたくない方には篤実にするなど無理はさせない様にしている バスクリンで楽しんで頂いている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動量を増やし、ぐっすり夜は眠れる様に臥床時間を増やしている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分からない事があれば、医師には勿論、薬剤師にも確認している		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課の掃除の役割など、お手伝いして頂いています それぞれの出来る範囲で得意な事で活かせる場を設けている		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出は控えていたが、遠足に出かける事が出来た。買い物に行きたいか方にはスタッフが同行しました		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は自分でお金を管理している。必要なものがあればスタッフが購入代行している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持って入所された方はお友達と日頃、電話で話して生きがいが出てきました		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物を育て季節感を感じてもらおう テーブルの席は余り替えず安心してもらう様に努めている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで年の合った方同志でお喋りしたり仲良く過ごして見えます		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅の時に使われていた家具やTVなど置かれている 思い出の写真も飾ってもらっている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべて手助けするのではなく出来ることは増やしてあげたい		